

この度、春休みを利用し「タウニー」のサンフランシスコ短期研修に参加しました。私は以前もこの短期研修プログラムに参加したことがあり、今回は2回目ということで前回よりも少し余裕をもって行動することができました。

日本とアメリカの違いについて私なりに気付いたことをレポートしようと思います。まず、日本とアメリカの時差は17時間あります。羽田空港から深夜0時に出発し、約10時間のフライトを終えSF空港に到着すると、そこは一日前に戻って午後の5時でした。前回の時は8月でサマータイムだったので16時間でした。夜に出発して、夕方に到着するというのは不思議な感じでしたが、一日前に戻って少し得した気持ちでもありました。気候は3月にもかかわらず暖かく、湿気の無さには驚きました。私が住む日本の新潟県は特に湿気が多くジメジメしているのですが、私にとってはこの気候はとても良いものでした。夏に来たときは場所によっては寒く上着が必要なほどでしたので、その季節よっての変化も日本の四季のように夏なら暑く、冬なら寒いという当たり前の感覚ではいられないということに初めは違和感がありました。

到着してすぐ、現地スタッフの方との連絡をとるため、初めてアメリカの公衆電話を使ってみようと思いました。というのは自分の携帯電話からも掛けられるのですが、海外での使用料金はとても高額になるからです。ですが、\$25コインを何枚か入れ電話番号を押してもなかなかコールしなく、結局使うことをあきらめました。そうこうしている間に現地スタッフの方と落ち合えたので良かったのですが、使い方を尋ねてみると、電話番号の前に「1」を付けてから番号をおさなければならないことを知りました。何がおこるか分からないアメリカで、もしもの緊急時に備えてこれは絶対頭に入れておくべきことです。

空港から移動し、滞在するユースホステルにてチェックインしました。このユースホステルというのは（以下ホステル）は日本ではあまりなじみはありませんが、バックパッカーなど長期に渡り滞在する人が多く利用する低価格な宿泊施設として海外では一般的に知られています。一泊\$20前後で利用できる代わりにサービスは一般的なホテルとは違いあまり無く、だいたいのことはセルフサービスです。部屋も他の宿泊客とシェアする形です。宿泊客は色んな国から来るので、そこでルームメイトになった人との交流を楽しめます。キッチン、ランドリーも付いており、自分たちで好きに料理や洗濯をして過ごすことができます。ホステルによって設備は異なり、前回とは違うホステルに滞在したのですが、今回の所はシャンプーやタオルが付いていなかったのが、急ぎょ購入することになってしまいました。お風呂は湯船に浸かるという習慣はあまり無く、シャワーのみでしたが、圧力が弱く物足りなさがありました。日本のようにサービスの充実したホテルに慣れていると、このようなホステルは最初とてもとまどいます。しかも2週間の滞在なのでやっていけるかどうか不安でした。ですが慣れてくるとスタッフの方と会話したり、自販機や洗濯機なども英語表記で、英語の勉強になるので、一流ホテルに泊まって日本人客として素晴らしいサービスを受けるより、学生としては得るものが沢山ありました。長く滞在した分、私はチェックアウトの頃には少し名残惜しく感じました。

次に移動に利用する公共機関についてです。サンフランシスコでは、観光客は主にバス、電車での移動が一般的です。まずバスのシステムは乗車時に\$2を払いトランスファーチケットを購入しそこに表示されている時間内ならどの路線でも自由に乗り降りできるというシステムです。一回の利用ごとに料金を払う日本のシステムとは違い、お得感もありとても便利なので是非とも日本も導入するべきだと思いました。



電車は移動する目的地によって二種類の電車を利用できます。ひとつはBARTです。BARTはサンフランシスコのベイエリアの周りを走る高速鉄道で、日本の快速電車のようなものでした。切符の買い方が少し変わっていて、券売機にて現金を入れ目的地までの料金を確認しそれを切符となるカードにチャージして購入するシステムです。もし多く料金をチャージしてしまっても余ったとしても、そのカードがそのまま使用でき、さらにチャージすることで何度も使えます。日本のsuicaに少し似ていました。車内は広々としていて乗り心地もよかったです。しかし夜は治安が悪くなるため乗らないほうがよいとのことでした。



もう一つの電車はCaltrainという電車です。この電車はサンフランシスコを始発しギルロイという所まで約7マイルを縦断する郊外向けの通勤電車として作られました。運賃システムは距離制で、ZONEごとに分けられており、乗車する駅と降車する駅のゾーンの違いで計算されます。例えば、私が利用したZONE2に位置するミルプレー駅から、目的地のパロアルト駅はZONE3なので、1ZONEまたがる片道料金を券売機で購入しました。上りと下りによる料金の違いはなく、種類は片道(One-Way)、

一日券 (Day Pass)、乗り越し券 (Zone Upgrade) とあり、片道券はその区間を一回乗車するのみで、一日券はその区間を日付が変わるまでは何度でも乗車できます。乗り越し券は、持っている切符を他の ZONE までに変更したい時に購入します。区間で購入しているのので、日本のような電車に乗るときの改札はなく、切符を購入した後そのまま列車に乗車できますが、車内で係員が切符をチェックしに来ていました。車両は二階建てで、私は二階席に座り外の景色を楽しみながら乗りました。



これら公共機関を利用することで観光客でもサンフランシスコの市内から郊外までスムーズに移動することが可能です。事前の下調べをしておくことでさらに有効的に活用できるので、これらのシステムをある程度、把握してから利用することをお勧めします。

そして今回、アメリカの文化についての違いを一つ体験することができました。私が研修に訪れた期間が、アメリカでは「Easter」と呼ばれるキリスト教の復活祭という時期にあたり、街ではウサギや卵をモチーフにした商品であふれていました。初めはこの「Easter」自体が解らず後に調べてみると、キリストが一度死んで再び蘇ったことを祝う祭りのようで、万物の復活の象徴である卵や、繁栄の象徴のうさぎがシンボルとされているのだそうです。ハロウィンやクリスマスと並びアメリカでは一般的な祝日で、学校や家庭などで色々な行事がされると聞きました。ここで驚いたことがあり、イースター休暇というものもあり、大型店など普段休館しないような店舗が営業をしない日が設けられていることでした。私が帰国する日がちょうどその日に当たり、お土産品などの最後の買い物に出掛けると店が閉まっているので、不思議に思い調べてみるとイースター休暇ということが解りました。このことは長年住んでいるタウンニーのスタッフの方たちも知らなかったそうです。日本でのそういった大型店の休館はお正月ぐらいなので、それ程キリスト教の人たちにとっては神聖なイベントなのだと思います。

2回に渡りアメリカでの研修を通し私が感じたことは、言葉はもちろんですが、文化・習慣・役所手続きなど、様々な違いから日本人がアメリカで生活することの大変さをとっても学びました。このような貴重な体験をさせてもらう機会を与えて頂いた、タウンニー並びに関係者や、新たに出会うことができた方々に心から感謝申し上げます。